

# 需要好調受け遂行力向上

## シニア層など処遇改善

### 千代田エクスワン

千代田エクスワンエンジニアリング（CXC）は、堅調な需要を背景に遂行能力向上を進める。賃上げなど処遇改善を進めて採用拡大につなげ、とくにシニア層が働きやすい環境を整えていく。同社は千代田化工建設グループにあって連結業績のベースロードとしての役割を担っており、2025年度業績は過去最高だった24年度を大幅に上回る見通し。今後、も遂行力と収益力の強化を図っていく。30年近傍には純利益60億〜70億円を目指す。

○は主に数十億円規模の中小型案件を手がける。24年度は統合前の3社

CXCは23年度に千代田化工建設グループ3社の統合により設立され、00億円を超え、かつ難国内市場向け設計・調達・建設（EPC）および化工建設が実施し、CXC



25年9月に完工したかねさ向け「かねさ顆粒みそ工場」

合計と比較しても過去最高の業績となり、売上高620億円、純利益47億円を達成した。25年度はさらに大幅に上回る見通しとなっている。

顧客の計画段階からサポートすること、随契約による基本設計（FEED）、EPC受注へとつなげるケースが増えている。

顧客の計画段階からサポートすること、随契約による基本設計（FEED）、EPC受注へとつなげるケースが増えている。

顧客の計画段階からサポートすること、随契約による基本設計（FEED）、EPC受注へとつなげるケースが増えている。

顧客の計画段階からサポートすること、随契約による基本設計（FEED）、EPC受注へとつなげるケースが増えている。

26年度以降も堅調な需要環境が続くと予想しており、石化コンビナートでは従来分野に加え脱炭素関連案件の具体化が進むことも期待している。

25年度は新卒・中途との人員交流、協力会社との連携強化、デジタル技術活用による業務の自動化などによっても遂行能力向上を図っていく。

25年度は新卒・中途との人員交流、協力会社との連携強化、デジタル技術活用による業務の自動化などによっても遂行能力向上を図っていく。

千代田化工建設と連携し、水素案件の検討や、太陽石油から受注した沖縄事業所における持続可能な航空燃料（SAF）プラントのFEEDを実施中だ。

同社は想定以上に事業拡大が進んだことから30年ビジョンを見直し、26年度から新たに「1.5TWh・D・ビジョン2030」を実施する。28年度に完工総利益率15%、営業利益率12%達成を目標とし、28〜34年度の平均純利益60〜70億円を実現する事業基盤を構築する。

最重要課題はリソースの拡大で、とくに50歳以上のシニア層の充実を図

EPCはライフサイエンス、食品、エネルギー、ファインケミカル、電子材料、非鉄金属など幅広い案件を受注しており、100億円超の大型案件も含まれている。同社は設計提案に強みがあり、

OS・仙台、川崎、水島、出光興産・北海道、川崎、愛知、東亜石油・京浜、昭和四日市、太陽石油・四国などを実施した。

OS・仙台、川崎、水島、出光興産・北海道、川崎、愛知、東亜石油・京浜、昭和四日市、太陽石油・四国などを実施した。

OS・仙台、川崎、水島、出光興産・北海道、川崎、愛知、東亜石油・京浜、昭和四日市、太陽石油・四国などを実施した。